



ブックハンティングを終えて

夏休み直前、うだるような外の暑さとは異なり、やや空調の効いた管理棟で涼んでいた私へ起こった悲劇—まさかのテストの休み時間に、栄養の清水先生に挨拶したこと—それが私と奴、ブックハンティングとの出会いだった。

奴、保健大の中でも知る人の少ない、いや、授業前やガイダンスで告知はされているはずだから知っているのだろうが、なんとなく面倒くさそう、そんな理由で敬遠されている図書館主催のイベント、それが奴の正体である。そして自己紹介が遅れたが、自称きつと 20 歳、栄養学科の希少価値、男。それが私maidである。以後お見知りおきを。

さて、前置きが長くなったが、今回私が選んだ本と、その紹介、選んだ理由を簡単に説明しようと思う。まず、このページを開いた時点で気がついた人がいるかもしれないが、私が今回

買って貰った本はたったの 4 冊である。今年の人以外の人は知らないが、例年だとこの 2 倍程度は買っているはずだ。それはなぜか？それには奴について少し説明する必要があるかもしれない…奴は、そう、なんでも買ってくれる気前のいいやつという訳ではなく、12000 円以内で、という制限の中で本を買ってくれるのだ。ここでお気づきの方もいるだろうか？そう、私は値段の張るハードカバーを選んだのだ。普段文庫しか買えない私にしては、大きめの表紙に書かれたタイトル、絵、その重み…全てが日常から離れた贅沢気分という訳だ。加えて、残り数冊は既に図書館にあるらしく弾かれたのだ。いかにも詰めが甘い所が私らしい。

いい加減長いので、要点をさっくり。この 4 冊を選んだ理由は、最近流行の小説家の作品だからだ。坂木司だけその点では色が違うかもしれないが、流行る要素は持っていると思う。個性豊かな登場人物、心温まるお話、同じ作者の別作品でも登場する人物達、続き物...といった

感じで。実は一作品ドラマ化している。ウインターホリデーは先にワーキングホリデーを、和菓子のアンはお腹を空かせて読むことをおすすめする。ちなみに作者は性別不明だが、十中八九女性であろう。男性だと少々気持ち悪い。伊坂幸太郎は説明するまでも無いだろう。映画やドラマ、漫画にまで手をだしている今人気の小説家。大抵舞台は仙台～盛岡なので保健大生には馴染みの地名が出る作品が多い。ちなみに今回選んだマリアビートルは、併せてグラスホッパーを読むと良い。そして最後に重松清。実はなんとなく毛嫌いしていたために、この筆者の作品を読むのはこれが初めてである。最初は登場人物の駄目さに嫌気がさすが、王道らしく、青春！といった感じでまとめている所あたり、流石は教材に使われるだけはあるといった感じだろう。他にも有名どころならあさのあつこや有川浩、東野圭吾も、現代風で読みやすいだろう。お暇ならどうぞ。村上春樹は性癖が嫌いなので、おすすめしない。あとは啓発本や偉人の本も流行のような気がするが、偉人は一様

に同じ事を述べる上に、ベンチャー系の人の後追いは成功しないので 2 冊以上はおすすめしない。

こんな所だろうか？ 図書便りらしく書き物風に書いてみたが、予想外に長くなった。歳だろうか…いや、きっと 20 歳ですが、なにか？

最後に、何度も貸し出し延長に笑顔で対応して下さいました図書館司書の方々をはじめ、本を購入して下さいました保健大、優しく注文の受け答えをして下さった成田本店の方々、こんな駄文を飽きずに最後まで読んで下さったあなたに感謝の意を表して終わりにしたいと思います。有り難う御座いました。



SHINPEI MAITA Selection



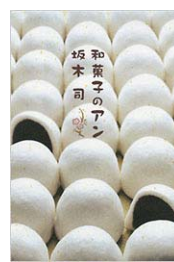
『希望ヶ丘の人びと』
重松清
小学館
913.6||Sh28



『マリアビートル』
伊坂幸太郎
角川書店
913.6||I68



『ウインター・ホリデー』
坂木司
文藝春秋
913.6||Sa31



『和菓子のアン』
坂木司
光文社
913.6||Sa31